

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 21 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171300573		
法人名	医療法人社団 明星会		
事業所名	グループホーム 明星		
所在地	岐阜県加茂郡富加町夕田373番地 (電話) 0574-54-2993		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年1月24日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 20 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 1 月 4 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	24,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	昼食代に含む 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 20 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2		2 名	
要介護3	4 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 86.77 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	太田病院、石原医院、天池歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山の木々に囲まれた自然環境の豊かな場所で、一般家庭と同じ施設で支援が継続されている。利用者のそれまでの経験や趣味を活かした生活の再現を実施し、そこで暮らす人々が生き生きとした表情を見せている。近所の人々との交流が多いことや、地域の農家の協力を得て畑の作業を楽しんだり、山の裾野にある公園への散歩や弘法参り、洗い張り、漬物作り、保存野菜作りと、利用者の知恵をかりながら共に暮らしを作って行くホームの方針が継続されている。体を動かすこと、楽しみを見つけながらその日が送れるように利用者職員が共に暮らしている。1泊旅行や日帰りの遠出等もリスクを予測した対応の準備を行い、あまり行動の制約をせず支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 職員は、法人の管理栄養士からカロリー計算を学び、記録している。広い廊下も部分的に温度調節ができるようになった。日常の記録についても工夫が見られ、利用者の気持ちや生活把握に取り組んでいる。利用者の身体状況の変化に対応するためトイレの改修についても検討が始まった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価に取り組み、管理者がまとめた。多くの意見が出たことでこれらを活用し、ホームの向上を目指し、努力している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎に開催される運営推進会議を通し、ホームの運営姿勢を報告したり、ホームへの質問を受ける機会ができ、地域との関わりの窓口ができたことを大切に考えている。今後、地域の方へ積極的な声かけや立ち寄りしてもらえるような日常の付き合い、地域活動への参加・交流、地域の高齢者の暮らしに役立つ情報提供等に取り組んでいく姿勢である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ほとんどの利用者に面会が多く、家族の訪問時には声をかけ、日頃の様子を話したり、意見を聞いている。意見があった場合は、職員で話し合い、改善に向けた取り組みを家族に伝えている。苦情としての意見は挙がっていないが、利用者や家族と気持ちの行き違いが無いように職員間で話し合っている。家族から、感謝の声が多い。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣や地区の役員に理解と協力の輪が広がっている。弘法参りや外食に外出する場合も出会った地域の人から協力を得ている。幼稚園や学校の運動会には席を設けて招待される等、子供達との交流があり、喜ばれている。町の祭りには、家族の協力を得て地域に出かけ、町民からも暖かい支援がある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「1.その人らしさを大切にします 2.安心と喜び、やさしさ、ぬくもりを大切にします 3.地域、家族の結びつきを大切にします」を、理念とし、地域との結びつきを念頭におき、地域の宿でありたいとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、日々のケアの中で3つの理念を理解し、利用者の生活のレベルアップを目指し、取り組んでいる。又、毎月の会議で、また、日常的に理念の実現に向かっていくかの確認を継続している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会総会に出席したり、自治会長が運営推進会議の委員となったことで地域住民との交流の道が開かれた。自治会活動への参加は、職員数や利用者の状態への配慮が大きくなるため、今後の取り組みの課題としている。	○	運営推進会議を通し、今後、更に自治会活動の情報を得、ホームの利用者と共に地域の活動等に参加できる方法の検討に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全体で行った。外部や内部の評価・意見は、母体法人に報告し、改善に向けての協議がなされる。現在は、利用者の排泄支援のため現在あるトイレの改修についての検討、協議が行われている。	○	利用者の身体能力の変化にとまない、現在のトイレを改修することを検討中である。利用者のプライバシーに配慮した構造であることや、開けやすい扉等の改修になることが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、参加者の意見が引き出され、ホームからの情報発信の方法等のヒントを得ている。ホームは、利用者の日常生活の様子や外部評価の報告をする場ができ、「グループホーム」の理解が地域の方々に広がり始めたのを実感できている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターにおいて、毎月、地域のケアマネジャーが集まって地域ケア会議を行い、行政と情報交換もする。運営推進会議に行政担当者が参加し、連携が取りやすい関係作りができつつある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは、毎月のホーム全体の写真を掲載した通信で伝えている。預かり金から千円以内の範囲で本人が管理できる。家族と協議し、収支の都度、出納帳に記入し、日常の報告は口頭で行い、年1回、12月にレシートを添付し、家族に送付している。	○	通信はホーム全体の様子を伝えるものとなっているので、さらに、一人ひとりの暮らしぶりや健康状態の情報や金銭管理の定期的な報告をする等、家族の知りたい情報を提供する取り組みも期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほとんどの利用者において、家族の面会は日常的に多い。又、ホームや地域での活動に協力する家族も多く、管理者や職員との対話の機会も多い。家族には、入居契約時に苦情窓口を知らせたり、対話を心がけているが、苦情は聞こえてこない。	○	職員は、家族の声を聞こうと多くの機会を意識して取り組んでいるが、更には、重要事項説明書等に苦情相談担当者を記載したり、家族との会話の中から「気づき」の部分を探る等の取り組みを今後も継続されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置は母体法人で行われていたが、ホームの特色から職員の採用はホームで行えるよう法人に要望し、かなえられた。職員の異動は、交代職員と重なる等の配慮は困難であるが、管理者や施設長は、ともに馴染んでいけるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報は、母体法人を通したり、ホーム独自で入るルートがある。職員が平等に研修参加できるよう配慮しているが、ホーム内で参加できる人数に制限があるため、伝達講習で周知を図っている。研修の知らせが、間近であったり、募集期間が短く、勤務調整等困難で参加計画が立ちにくいこともある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で知り合った事業所の方の訪問を受けた。岐阜県グループホーム協議会への加入があり、研修の開催があれば参加し、関連機関との交流に心がけている。	○	グループホーム関係者が開催する研修会に参加し、自身のホームの活動を振り返る機会にする等積極的な交流への取り組みで、さらなる、サービスの質の向上に期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の制度は取っていないが、本人が納得して入居できたり、雰囲気になじめるように家族、職員間と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を送る上で、利用者の生活の経験を多く取り入れ、保存野菜の作り方、漬物、野菜作りや健康茶づくり等利用者と共に作ったり、作業を見て一緒に時間を過ごす過程で、共に支えあう関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居期間が長く、本人の好みや思いは職員間で共有できており、さらに最新情報を把握し、毎日、介護日誌に記載し、職員間で共有している。意思表示が困難になってきた利用者に関しては、職員間での情報交換を重視し、センター方式を役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の意向を大切に考え、遠方の家族や面会の少ない家族にも頻繁に連絡を取ったり、手紙で利用者の状況を報告して家族の意見を得るよう工夫している。又、医療機関との調整が必要な利用者に対しては連絡を取り、計画に組み入れている。日々の個別介護記録は、適切に記入されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングにおいて、利用者の状態に合った計画になっているか話し合い、見直しをしている。急な変化があった場合は、関係者や家族と話し合い、変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の老人保健施設に移った利用者への訪問や職員の住宅近くに住む元利用者宅を訪問している。運営推進会議や地区の住民から介護保険や介護等の情報提供が求められれば対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人診療所に定期的な健康管理を依頼し、受診支援をしている。家族の都合がつかない利用者には、かかりつけ医への受診支援も行っている。緊急時入院については、総合病院の医療機関と協力関係を得ている。	○	今後は、更に専門医との連携を深める取り組みが期待される。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム内に看護師がいないため、できる事への限界があるが、家族との話し合いをこまめに行い対応した例がある。今後、重度化に向けケアのあり方についての検討に取り組む姿勢がある。	○	利用者、家族、医療機関関係者との連携体制を整え、方針を十分に話し合ったり、それを支える姿勢が共有する細い打ち合わせをしたり、確認ができるような指針づくりの検討等、取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の記録等個人情報の取り扱いに十分注意し、守秘義務を身に付けた支援を実施。職員ミーティングで、利用者の思いやペースで生活できるよう、声の掛け方、話しかける言葉、対応等話し合い、配慮したケアが実施できているかの振り返りもしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日程を決め、利用者の希望やその季節ならではの楽しみができるよう生活を支援している。畑での作業や収穫した野菜の加工、料理、縫い物、音楽等、利用者の得意なことを回想法で取り入れ、その人ができる事の継続を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑に収穫に出かけたり、包丁を使っての野菜の皮むき、漬物作り、健康茶作り、食卓の準備、配膳、食事の挨拶、下膳とそれぞれが持つ力で、無理なく参加できる場面が用意され、職員が丁寧に補佐している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1対1で週3～4回、季節により桃の葉、よもぎ、バラ、菖蒲を入れた入浴を楽しんでいる。本人が着替えの準備をし、職員が確認している。風呂場で気分が変わる方には無理強いをせず、できる範囲での清潔支援を行ったり、翌日に変更する等柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や、食事時の挨拶、縫い物、廊下のモップがけなど得意なことや希望を取り入れ、役割が提案され、実施の支援を行っている。近くの戦没者慰霊碑がある公園まで弁当を持って散歩に出かけるなど気分転換も柔軟に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年1回の1泊旅行、日帰りの温泉、地域の名所訪問、2ヶ月に1回の外食、月1回の喫茶店、弘法参り、地域の公園や畑に行く、ホーム近くにある法人の老人保健施設で毎月開催する誕生会に参加する等、積極的に機会を作り実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一般家庭と同じように夜間施錠を行なっている。周囲は、自然環境が豊かで山や池、公園が広がるため、不意に外へ出て行く利用者には、職員間で十分に申し送りを行い支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、毎月同じ日に実施を恒例化している。利用者も訓練を理解しており、職員の意識や利用者の状態把握のためにも、今後も継続する予定である。避難誘導後は、外気に触れながらのおやつタイムとなり、避難場所に椅子も確保できている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士に相談ができ、職員はカロリー計算が行えるようになり実施している。食事・水分の摂取量、排泄のチェック、どくだみ等の入った健康茶づくりや繊維の多い食材のおかずにも配慮し便通も良い。体調管理に昔からの知恵を活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造の施設タイプの構造で廊下が広く、天井に明かり取りにもなるガラス窓やリビングのガラス窓等からの採光は良く、明るい。長く広い廊下は、温度差があったが、廊下部分の暖房の切り替え調節が可能となった。人から離れた位置にあるソファも人気がある。毎朝、居室も含めた自然換気を行い、空気の流れがよい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に家族で写した写真や入居前に作った作品が飾られたり、好みの椅子が搬入されている。移動に支障が無い範囲で、小型冷蔵庫、テレビ、リクライニングソファが持ち込まれ、センス良く部屋が整えられている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。